大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	91	評価年度	令和9年度版
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	財産管理費(旧総合文化会館)					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	産業文化部	文化振興課	文化振興係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	12
	一般会計	02.01.15	12	07	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 旧総合文化会館
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 ・旧総合文化会館の解体までの維持管理 ・旧総合文化会館の解体
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 ・旧総合文化会館の解体までの防犯のための機械警備、自家用電気工作物の保守点検 ・旧総合文化会館の解体工事
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 老朽化し廃止となった旧総合文化会館を解体することにより、防災・防犯上の懸念点の解消ができる。また、市役所周辺の景観の悪化を防止し、解体後の跡地利用がしやすくなる。

(2) 指標設定	指標内容			指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	旧総合文化会館の解体工事実施設計		1	件
			②				
			③				
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①	旧総合文化会館の解体		1	件
			②				
			③				

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	解体工事実施設計業務委託を行い、解体工事に向けた予算措置や工事計画を立てた。 跡地は、利用しやすいように駐車場として整備する。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	6,490	149,674			
	(c) コストの対前年比		2306.22%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	16	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 旧総合文化会館の解体工事実施設計	1	件	1	1	増加指標	100.00	%	a	a
	②							%		
	③							%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 旧総合文化会館の解体	1	件	1	1	増加指標	100.00	%	a	a
	②							%		
	③							%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	前年度記載なし	
	前年度からの改善結果	—	前年度記載なし
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	解体工事実施設計を行い、令和8年度解体工事に必要な予算措置ができている。 解体工事がスムーズに行えるように、館内の残置物等の整理・処分のスケジュール管理も適切に行えていた。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	物価高騰、中東情勢の不安による工事価格の上昇が懸念される。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	令和8年度に建物を解体し、駐車場として整備する。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.16	A	解体工事実施設計に行い、館内の残置物の処理も適切に行えた。令和8年度に解体し、駐車場として整備する。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	93	評価年度	令和9年度版
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	那須野が原ハーモニーホール管理運営事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	産業文化部	文化振興課	文化施設係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	13
	一般会計	02.01.12	458	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 ■複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 市民を中心とする、施設利用者及び来場者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設利用者及び来場者へ、芸術文化に触れ、自ら活動する機会を提供する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 ホール及びギャラリーの貸出事業を行い、気軽に芸術文化に触れる機会を提供する。 自主事業の中で優れた芸術文化講演等を実施し、魅力を体感できる機会を提供する。 設備修繕及び改修等を計画的に行い、より良い設備を利用者に提供する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 平成6年に開館したハーモニーホールの設備管理・施設利用の促進により、質の高い地域芸術文化の継続的な普及促進を図る。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	① 指定管理者との打合せ		12	回
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	① 貸館事業の推進		700	回
			② 自主事業観覧者数		9,000	人
			③ 貸館利用率		65	%

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	自主事業の人数や貸館数などは、新型コロナウイルス感染症の影響がしばらく続いていましたが、今年度は、前年度より回復してきております。貸館の利用率については昨年同様、入場者数では約2千人増、自主事業入場者数で4千人増と増加傾向にはありますが、コロナ禍前には戻りきっておりません。さらに、旧大田原市と旧西那須野町が共同で建設した当ホールは平成6年に開館のため、現在、施設の老朽化、設備の経年劣化等に伴う大規模な改修、更新が必要となっている。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	216,263	378,758			
	(c) コストの対前年比		175.14%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	3	12	b
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	3		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 指定管理者との打合せ	12	回	25	1	増加指標	208.30	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 貸館事業の推進	700	回	977	1	増加指標	139.60	%	a	a
	② 自主事業観覧者数	9,000	人	8,525	1	増加指標	94.70	%	a	
	③ 貸館利用率	65	%	60	1	増加指標	92.30	%	a	

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	新型コロナウイルスの影響から徐々に回復しつつありますので、今まで慣例的に行っていた自主事業を辞めて、地域の実情にあった催し物を皆様に提供していく。施設については、計画的に改修及び修繕していく。	
	前年度からの改善結果	検討中	新型コロナウイルスの影響も徐々に回復してきてはありますが、現状の取り組みを継続するとともに、集客の工夫を凝らしていく。さらに、施設を計画的に改修及び修繕していく。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	今年度も新型コロナウイルスの影響は収束してきておりますが、前年度より回復傾向にはあります。しかし、まだまだ良かった頃には戻りきってはありませんが、今まで培っていたノウハウを活かし、地域の文化育成に貢献しているため。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	新型コロナウイルスの影響はまだまだありますが、地域文化発展のために、厳選された音楽・演劇・美術等の提供を行い、集客の向上を図るために広告宣伝などのPRをさらに考えていかなければならない。さらに開館から30年経過しているため、改修や修繕を行わなければならない箇所が多数ある。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	新型コロナウイルスの影響から徐々に回復してきていることから、今まで質より数の自主事業を数より質(子供向けや集客が見込めるもの)に変更して、地域の皆様により良いものを提供していく。施設については、計画的に改修及び修繕していく。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.16	A	新型コロナウイルスの影響があった令和2年度以降は毎年利用者数は増加している。施設自体は開館から30年経過しているため、計画的に改修や修繕を行いながら、地域文化の発展のために良質な音楽・演劇・美術などを提供し、SNS等を利用して集客の向上を行っていく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	269	評価年度	令和9年度版
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	文化財保護事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	産業文化部	文化振興課	文化財係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	13
	一般会計	10.05.01	281	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 ■複数年度					(令和6 ～ 令和10 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 ・埋蔵文化財包蔵地及び市内遺跡 ・地権者及び開発事業者 ・市民
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 ①保存目的確認調査：東山道駅路跡や国指定史跡侍塚古墳等の貴重な遺跡の状態を把握し、後世に継承することを目的とする。 ②緊急確認調査：開発行為に伴い遺跡が影響を受けることのないよう、市内遺跡を適切に保護するため、遺跡の有無や状態を把握するとともに、開発行為を行う者に対し、適切な指導を行うことを目的とする。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 ①遺跡の状況に応じて、測量、発掘、出土資料の整理等を行う。併せて、調査結果に関する現地説明会や企画展等を開催する。 ②「遺跡分布地図」を基に、埋蔵文化財包蔵地内の開発行為箇所について、測量、試掘等の緊急確認調査を行う。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 ①調査結果を遺跡の価値評価や保存措置の検討に必要な基礎資料として活用するほか、現地説明会や企画展等の開催により、遺跡に関する関心を高め、貴重な遺跡を後世へ継承する意識の醸成を図る。 ②開発行為を行う者に対し遺跡保護に必要な指導を適切かつ的確に行うことで、開発行為による市内遺跡への影響を未然に防ぎ、地域の歴史資産の保護につなげる。

(2) 指標設定	指標内容			指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①	埋蔵文化財保存目的・緊急確認調査の箇所	埋蔵文化財保存目的・緊急確認調査の箇所数	3	箇所
			②				
			③				
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①	埋蔵文化財保存目的・緊急確認調査の報告書作成	報告書作成	1	件
			②				
			③				

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	①保存目的確認調査については、上侍塚北古墳及び、平林真子遺跡の調査を行い、令和7年12月7日には、上侍塚北古墳の現地説明会を開催した。また、報告書については、令和3年度から令和5年度にかけて調査を行った佐良土上の原Ⅱ遺跡の報告書については、引き続き作成中である。 ②開発行為に伴う緊急確認調査については、北野上上ノ台遺跡、加治屋Ⅱ遺跡等、全7件であった。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	24,716	32,267			
	(c) コストの対前年比		130.55%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	14	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	3		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 埋蔵文化財保存目的・緊急確認調査の箇所	3	箇所	9	1	増加指標	300.00	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 埋蔵文化財保存目的・緊急確認調査の報告書作成	1	件	4	1	増加指標	400.00	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		令和5年度に専門監を雇用したが年度途中で配置替えとなったことから、新たに埋蔵文化財専門職員の配置が必要である。
	前年度からの改善結果	現状維持	人員配置について専門監1名の配置を要望したが配置されなかったため、埋蔵文化財専門ではない職員が開発行為に伴う確認調査の対応を行った。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	埋蔵文化財専門職員の新たな配置は行われなかったが、在籍する学芸員と一般職の職員が協力して業務を行い、開発行為に伴う確認調査の対応を行うことができた。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	・開発行為に伴う確認調査が急増しており、適切な指導と速やかな対応が求められる。 ・無断着工が散見されており、庁内外に対する周知が必要。 ・上侍塚北古墳の国指定史跡への追加登録に向けて、古墳の周溝部分を確定するための調査が必要。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	・埋蔵文化財専門職員の育成 ・埋蔵文化財包蔵地の開発行為に関する留意事項の周知 ・上侍塚北古墳の計画的な発掘

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.16	A	埋蔵文化財包蔵地の開発行為に関する緊急確認調査や開発業者に対する指導・助言を行う職員の育成に取り組むとともに、埋蔵文化財包蔵地内の無断着工を減らすため、埋蔵文化財包蔵地の開発行為に関する留意事項の周知を図る。 上侍塚北古墳をはじめとした保存確認調査については、発掘箇所を精査し、先を見据えた計画的な発掘を行う。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	87	評価年度	令和9年度版
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	なす風土記の丘湯津上資料館運営事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	産業文化部	文化振興課	文化財係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	13
	一般会計	10.05.05	853	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 一般市民
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 郷土の古代文化発祥に係る遺跡及び郷土の歴史資料、考古資料、民俗資料等の一体的な保存及び活用を図り、もって市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 地域文化財の収集・保存、調査研究、展示、教育普及活動を行う。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 地域の歴史・文化への関心を高め、また文化財保護活動への参加を促す。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①企画展・特別展・関連行事等の開催	企画展・特別展・関連行事等の開催・前年度の実績	10	回
			②講座・出前講座・出前授業の実施回数	講座・出前講座・出前授業の実施回数・前年度の実績	10	回
			③来館する小・中学校の学校数、来館団体数	子どもたち・一般観覧者への地域意識醸成・前年度の実績	15	回
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①企画展・特別展・関連行事等の来場者数	企画展・特別展・関連行事等の来場者数・前年度の実績	2,000	人
			②講座・出前授業の参加者数	講座・出前授業の参加者数・前年度の実績	110	人
			③来館小中学校の児童・生徒数、団体来館者数	来館した小中学校の児童・生徒数・団体来館者数・前年度の実績	2,000	人

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	県・那珂川町との連携事業や前年度の調査成果を速報展示する展示会を実施し、集客に努めた。今年度は、資料館内の空調・自動ドア工事のため臨時休館日を約2週間ほど設けたため、全体来館者数は減少している。また、文化財係の事業として、国庫補助を導入した学術発掘調査を実施した。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	20,530	10,745			
	(c) コストの対前年比		52.34%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	13	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	2		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 企画展・特別展・関連行事等の開催	10	回	11	1	増加指標	110.00	%	a	a
	② 講座・出前講座・出前授業の実施回数	10	回	13	1	増加指標	130.00	%	a	
	③ 来館する小・中学校の学校数、来館団体数	15	回	80	1	増加指標	533.30	%	a	

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 企画展・特別展・関連行事等の来場者数	2,000	人	1,901	1	増加指標	95.10	%	a	a
	② 講座・出前授業の参加者数	110	人	403	1	増加指標	366.40	%	a	
	③ 来館小中学校の児童・生徒数、団体来館者数	2,000	人	2,955	1	増加指標	147.80	%	a	

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	展示会や講座等の内容の充実のため、来館者や参加者からの意見を幅広く収集し、創意工夫しながら事業を計画する。活発な資料館活動を実現するため、ボランティアの受入だけでなく活動の場の提供や、地域資料の活用についても検討するなど、文化財を軸にした地域づくりへ積極的に取り組む。 また、広く周知するために、広報やホームページ、フェイスブック、よいちメール等を活用していく。	
	前年度からの改善結果	改善した	常設展示の資料の定期的な入れ替えなどにより、所蔵資料の積極的な公開を行った。また、各遺跡の位置情報をQRコードで展示室に提示する等、情報化に努めた。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	講座・出前授業の参加者数及び、来館小中学校の児童・生徒数等は大幅に伸びており、企画事業における取り組みの成果が伺える。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	近年の埋蔵文化財包蔵地における開発件数の増加を受け、当館が主に取り扱っている考古学を専門とする専門職員のマンパワーが不足がちになっている。そのため、企画展等の展示・教育普及活動や、その前段となる調査研究が十分にできていないのが現状である。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	人員・予算を効率的に活用しながら令和9年度以降の展示会・講座の拡充に向けて準備を進める。また、近年の潮流であるデジタル化として、インターネット上での発信や資料の3次元化に取り組む。 あわせて、資料館活動の根本である収蔵品台帳の整備に向けて準備を進める。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.16	A	展示会や講座等の開催も順調であり、参加者数も増加している。 引き続き、広報紙やホームページ、SNS等を活用して、事業の周知を図るとともに、デジタル化した資料の活用に取り組む。 あわせて、資料館活動の根本である収蔵品台帳の整備に向けて、準備を進める。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	95	評価年度	令和9年度版
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	ピアートホール管理運営事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	産業文化部	文化振興課	文化施設係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	13
	一般会計	10.05.06	880	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 市民を中心とする、施設利用者・来場者を対象とする。 また、大田原市ピアートホールの構成施設のうち、文化ホールを対象とする。
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設利用者・来場者へ、自ら文化芸術に触れ、または活動する機会を提供する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 文化ホールの貸出事業を行い、文化芸術活動の場を提供する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設利用の促進を通じて地域文化芸術の継続的な普及振興を図る。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①貸出件数	前年度及び前々年度の件数の平均	170	件
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①貸出利用者数	過去5年分の最大・最小値除く3箇年の平均	6,700	人
			②			
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	主に市民を対象に、文化ホールの貸出事業を通じて文化芸術活動の場を提供する。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	236,237	42,495			
	(c) コストの対前年比		17.99%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	13	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	3		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 貸出件数	170	件	273	1	増加指標	160.60	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 貸出利用者数	6,700	人	8,586	1	増加指標	128.10	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		少ない人員ではあるが、工夫して環境整備に努めることにより魅力ある施設としつつ、ピアートホール自体を市民に対し周知を図りたい。
	前年度からの改善結果	改善した	少ない人員ではあるが、工夫して環境整備に努めることにより魅力ある施設としつつ、ピアートホール自体を市民に対し周知を図りたい。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	ホールの利用については、新型コロナウイルスが収束したことと、文化会館の貸出終了などによりピアートホールの貸出件数及び利用者数は増加傾向にある。 管理全体としては、施設の管理に関しては、一部修繕や周辺整備を職員自ら直接施工するなどし予算を節約することにより立木伐採等周辺整備を委託実施することができた。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	当ホールは郊外の小高い丘の上にある立地条件から、どの方角から来場するにも急な上り坂であり、小中学生など交通弱者の利用が難しい。公共交通機関としては関東交通のバスが市役所間で1日6往復、西那須野駅間が1日5往復あるが、いずれも収益が上がる市街地や公共施設があるルートのみであるほか、新幹線の発着駅である那須塩原駅からの直通が無く、利用者にとってアクセスが悪い立地であり、自家用車での来場が前提の施設と言える。 敷地面積が広いため、草刈りや庭木の剪定、倒木の処理にも予算的に限界がある。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	少ない人員ではあるが、工夫して環境整備に努めることにより魅力ある施設としつつ、ピアートホール自体を市民に対し周知を図りたい。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.16	A	ピアートホールの施設利用の促進を通じて地域文化芸術の継続的な普及促進を図っている。ホールの利用についても、新型コロナウイルスの影響が収束したことと、文化会館の貸出終了などにより増加傾向にある。施設の管理に関しては、計画的に改修や修繕を行いながら、一部修繕や周辺整備を職員自ら直接施工するなどし予算節約に努める。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	84	評価年度	令和9年度版
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	芭蕉の館管理運営事業					計 画	おおたわら国造りプラン	
担 当 名	部 名	課 名	係 名				計画での位置付け	No.
	産業文化部	文化振興課	学芸企画担当			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	13
	一般会計	10.05.06	882	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 一般市民
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 郷土の歴史・文学・人文等に関する資料を収集及び保護活用し、郷土意識の高揚並びに教育及び文化の振興を図ることを目的とする。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 郷土資料の収集・保管及び展示(常設展・企画展等)を行い、郷土資料に関する調査研究を継続し、郷土資料に関する講座等を開催する。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 黒羽芭蕉の館の学芸活動に触れることで、郷土の歴史・文学・芸術に接することができ、郷土意識を高めることにつながる。

	指 標 内 容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
(2) 指標設定	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	① 企画展等開催数	展示会2回	2	回
			② 講座等開催数	近世の版本で読む『おくのほそ道』、黒羽藩主大関家の家譜を読む、黒羽古文書講座	25	回
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	① 黒羽芭蕉の館入館者数	年間の総入館者数	5,000	人
			② 講座等受講者数	年間の講座等受講者総数	400	人
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	黒羽芭蕉の館を維持管理しながら、郷土資料の展示、調査研究、講座等を開催している。
(2)備考	

(3) コスト計算	内 容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	6,762	6,505			
	(c) コストの対前年比		96.20%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	16	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 企画展等開催数	2	回	2	1	増加指標	100.00	%	a	a
	② 講座等開催数	25	回	25	1	増加指標	100.00	%	a	
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 黒羽芭蕉の館入館者数	5,000	人	10,751	1	増加指標	215.00	%	a	a
	② 講座等受講者数	400	人	467	1	増加指標	116.80	%	a	
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	本年度については、紫陽花まつりのイベント開催は2日間のみであったが、例年6月に設けている県民の日記念・紫陽花祭り開催記念・全国俳句大会開催記念の無料開館日を6日設定することができ、さらにNHK連続テレビ小説「風、薫る」への期待もあってか、前年度よりも入館者数が大幅に増加した。今後とも受講者に「参加して良かった」と思ってもらえるような講座を継続実施したり、春・秋には展示会を開催していきたい。	
	前年度からの改善結果	改善した	本年度については、幕末期黒羽藩出身の大関和をモチーフとした人物を主人公としたNHK連続テレビ小説「風、薫る」の放映を見据え、企画展「明治のナイチンゲール大関和のふるさと黒羽と医療」を開催し、多くの初公開資料を展示することができた。今後とも春・秋には展示会を開催し、受講者に「参加して良かった」と思ってもらえるような講座を継続実施していきたい。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	無料開館日を例年並みに設定でき、時宜を得たテーマによる展示会を開催したこともあり、入館者数は目標値を大きく上回ることとなった。講座の受講者数も、目標を上回ることができた。展示会や講座については、それぞれの内容的な充実と質の高さを維持することができたと考えている。

5.今後の取組に向けて（Act）

(1) 事業実施上の課題等	新型コロナウイルス感染症については落ち着いてきた感があり、当館の入館者数などは、いわゆる朝ドラ効果もあって大きく伸びているものの、これを一過性のものとしないよう、引き続きPRに力を入れていく必要があると考えられる。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	本年度については、いわゆる朝ドラ効果もあって入館者数は前年度に比べ大幅に伸びたが、今後さらなるPRに力を入れていきたい。また、今後とも受講者に「参加して良かった」と思ってもらえるような講座を継続実施したり、春・秋には展示会を開催していきたい。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.16	A	今後も県民の日記念、紫陽花祭り開催記念、全国俳句大会開催記念等として、無料開館日を設定したり、さらなるPRに力を入れていきたい。また、今後とも受講者に「参加して良かった」と思ってもらえるような講座を継続実施したり、春と秋には展示会を開催していきたい。特に令和9年度には、幕末期の小栗忠順を主人公に据えたNHK大河ドラマの放映が予定されているので、幕末期の黒羽藩主大関増裕についてさらに調査研究を進めていき、企画展開催につなげていきたいと考えている。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	85	評価年度	令和9年度版
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	文化振興事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	産業文化部	文化振興課	文化振興係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	13
	一般会計	10.05.06	883	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 市内の各種芸術活動を展開する団体
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 市民が質の高い芸術に触れる機会の充実と、市民が主体的に文化芸術活動に参加できる機会を提供するため
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 各芸術活動団体に補助金を交付し、各種団体の活動支援を行う。市民がより質の高い文化・芸術を作り出し、文化・芸術に触れる機会を身近なものにする。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 各芸術活動団体に補助金によって、優れた芸術作品の鑑賞、創作の機会を提供することにより、文化・芸術を身近なものとする。また、市民の文化・芸術に対する理解を深め、地域文化を振興する。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①補助事務件数	昨年度実績より算出	8	件
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①補助文化団体数	令和5年度予算より算出	8	団体
			②			
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	文化・芸術に対する意識の高揚並びに教育及び文化の振興を図るため、各種文化芸術団体の活動を支援している。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	13,306	12,324			
	(c) コストの対前年比		92.62%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	3	12	b
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	3		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 補助事務件数	8	件	8	1	増加指標	100.00	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 補助文化団体数	8	団体	8	1	増加指標	100.00	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		団体によっては、安易な補助金の増額を要望してくるなど、補助金ありきの団体運営になっているため、補助金の役割を丁寧に説明していく必要がある。 また、文化事業実行委員会の中には、自らの実施イベントであるにも関わらず、市主催のイベントを手伝っているという認識の委員も散見される。主催団体としての自発的な活動となるよう、意識面での改善を促していく必要がある。
	前年度からの改善結果	改善した	文化事業実行委員会の中には、自らの主催イベントであるにも関わらず、市主催のイベントを手伝っているという認識の委員が散見される。主催団体としての自発的な活動となるよう、意識面での改善を促していく必要がある。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	各文化芸術団体や文化事業実行委員会に対する運営費補助金の交付によって、各団体の運営が円滑に展開され、積極的な活動につながるよう、支援することができた。 各団体とも事業の中止や縮小によって不用額が生じる場合は、減額の手続きをとるなど適正な運用がなされていた。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	補助金の交付は、団体の文化振興活動を支援する役割を担っているが、その一方で、団体自体が運営にあたって補助金に依存してしまう傾向も見られる。 また、各団体とも高齢化による会員の減少があり、新たな人材確保が大きな課題となっている。また、そのため事務局(文化振興課職員)の負担も大きくなっている。 加えて、物価高騰等によりイベントなどの実施に伴う事業費の増加が微増しており、運営費補助金も年々収支が厳しくなってきている。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	団体によっては、安易な補助金の増額を要望してくるなど、補助金ありきの団体運営になっているため、補助金の役割を丁寧に説明していく必要がある。 また、文化事業実行委員会の中には、自らの実施イベントであるにも関わらず、市主催のイベントを手伝っているという認識の委員も散見される。主催団体としての自発的な活動となるよう、意識面での改善を促していく必要があるが、高齢化のため新たな人材確保も必要不可欠である。 物価高騰による事業費捻出については、安易な補助金増でなく事業内収入の増加、支出の見直しなど改善を図る。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.16	A	各文化芸術団体や文化事業実行委員会に対する運営費補助金の交付によって、各団体の運営が円滑に展開され、積極的な活動につながるよう、支援する取り組みを引続き図って行く。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	86	評価年度	令和9年度版
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	与一伝承館管理運営事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	産業文化部	文化振興課	文化施設係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	13
	一般会計	10.05.06	884	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 ①市民を中心とする、施設利用者・来場者を対象とする。 ②那須与一を始めとする大田原市に関する資料の収集、保存、展示を行い、市民に公開する。 ③多目的ホールの貸館を行う。
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 ①那須与一を始めとする大田原市に関する資料の収集、保存、展示を行い、市民の教養を高め文化の振興に寄与するため。 ②市民に文化活動の場を提供するため。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 ①収蔵資料の調査研究及び教育普及事業(展示会、講座等)を実施する。 ②施設の維持管理及び貸館を行う。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 ①随時企画を実施し、入館者数の増加及び図録等の売上げによる歳入の増加を図る。 ②効率的な貸館事業を行い、使用料による歳入の増加を図る。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	① 企画展の実施	特別企画展・テーマ展の実施	1	回
			② 多目的ホールの貸館	使用回数(貸出回数)	50	回
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	① 那須与一伝承館入館者数	年間の入館者数の総数	10,000	人
			② 多目的ホールの使用料	使用料の総額	500,000	円
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	那須与一伝承館の管理運営事業について、来館者のニーズに応える展示会等企画を開催し、市民の教養を高め、文化の振興に寄与する。また、多目的ホールの貸館を通して、市民に文化活動の場を提供する。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	26,970	24,048			
	(c) コストの対前年比		89.17%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	13	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	3		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 企画展の実施	1	回	1	1	増加指標	100.00	%	a	a
	② 多目的ホールの貸館	50	回	94	1	増加指標	188.00	%	a	
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 那須与一伝承館入館者数	10,000	人	11,929	1	増加指標	119.30	%	a	a
	② 多目的ホールの使用料	500,000	円	1,034,940	1	増加指標	207.00	%	a	
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	大田原の郷土について知ってもらうため、小中学生等にもPRを行っていく。展示室については、解説パネルや資料の見せ方についても引き続き検討することで、誰もが見て理解できる、さらには楽しむことができる展示手法について検討し実践していく。	
	前年度からの改善結果	改善した	引き続き工夫を凝らしたパネルや平易な解説パネルを作成し、来館者の理解度や満足度の向上につなげた。また、小中学校の夏季休暇に合せた企画を開催し、児童生徒の利用増につなげた。また、各学校のホームページに企画をまとめたチラシを掲載していただくことで、PRを図った。多目的ホールについては、総合文化会館の閉館等により稼働率が上がった。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	児童及び生徒へのPRや展示手法の改善といった課題について、積極的に取り組み改善することができた。また、来館者のニーズや時宜を得た企画(刀の展示会や終戦80年に合せた展示会)を開催した結果、入館者数や施設の知名度増にもつながった。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	扇の的劇場を上映するための各装置の老朽化が進み、生産終了となっている部品も多い。劇場の映像化も含めた、設備更新を検討する必要がある。また、館内のLED化について、展示室・収蔵庫・竹のギャラリー・多目的ホールのLED化については、伝承館の事業や貸館業務の実施に大きく関わる部分であり、早急に対応する必要がある。 展示等企画については、市民のニーズやアンケート等の来館者の意見をもとに企画を計画していく必要がある。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	扇の的劇場の設備更新や館内のLED化について検討し対応していく必要がある。また、伝承館の事業については、来館者からのアンケートをふまえ、ニーズに応える展示会を企画したり、こども向けの企画を実施したりしていく。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.16	A	児童及び生徒へのPRや展示手法の改善といった課題について、積極的に取り組み改善することができた。また、来館者のニーズに応える企画(刀の展示会や終戦80年に合せた展示会)を開催した結果、入館者数増にもつながった。扇の的劇場の設備更新や館内のLED化について検討し対応していく必要がある。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	89	評価年度	令和9年度版
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	大田原市芸術文化研究所管理運営事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	産業文化部	文化振興課	文化振興係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(13)文化・芸術の振興	13
	一般会計	10.05.06	885	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 芸術活動を行う作家や一般市民
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 芸術に触れる機会の提供 作家と市民との交流の拠点として、活動の場を提供
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 展覧会や講座の開催、インターネットによる情報発信
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 芸術について造詣の深い、又は高い技術をもった市民の育成

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①展覧会の開催	開催回数	2	回
			②芸術講座の開催	開催回数	40	回
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①来場者数	前年度に開催した展覧会の来場者数	800	人
			②受講者数	前年度に開催した芸術講座の受講者数	20	人
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	文化、芸術を総合的に研究するとともに、作家と市民との交流の拠点として、その活動の場を提供している。また、ゲタ箱展、研究員展の展覧会の開催や芸術講座を実施している。展覧会は公式SNSを活用し周知を図るとともに、Web上でも作品を公開している。
(2)備考	デザイン性が高い建物であるためか、雨漏りによる被害が多数ある。修繕するにも高額で手が付けられない。建築から25年以上が経過しているため、建物の老朽化や設備の経年劣化がみられる。

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	4,870	4,908			
	(c) コストの対前年比		100.78%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	3	12	b
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	3		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 展覧会の開催	2	回	2	1	増加指標	100.00	%	a	a
	② 芸術講座の開催	40	回	59	1	増加指標	147.50	%	a	
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 来場者数	800	人	1,180	1	増加指標	147.50	%	a	a
	② 受講者数	20	人	22	1	増加指標	110.00	%	a	
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	事業実施に影響がでないよう、適切な修繕に努める。	
	前年度からの改善結果	検討中	施設全体の雨漏り状況を把握し、予算の範囲内で対応している。 大々的な改修には高額な費用が掛かるため、年度事業に影響ない範囲で調整している。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	文化、芸術を総合的に研究するとともに、作家と市民との交流の拠点として、その活動の場を提供している。また、ゲタ箱展、研究員展の展覧会の開催や芸術講座を実施している。展覧会は公式SNSを活用し周知を図るとともに、Web上でも作品を公開している。 本市の文化芸術の拠点としての、活動推進が図れている。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	自然豊かな場所にあり、デザイン性の高い施設であるため、制作活動には最適な環境だが、車以外が交通手段の来場者にとっては、アクセスがやや不便である。 施設の雨漏り等修繕が必要となる箇所がいくつもあるが、修繕費が高額であるため手をつけられない。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	デマンド交通の案内をする。 事業実施に影響がでないよう、適切な修繕に努める。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.16	A	文化、芸術を総合的に研究するとともに、作家と市民との交流の拠点として、その活動の推進を引き続き図る。建物の老朽化による雨漏り等の大規模修繕については、長期的な使用目的など検討が必要。